



\*1201100593693\*

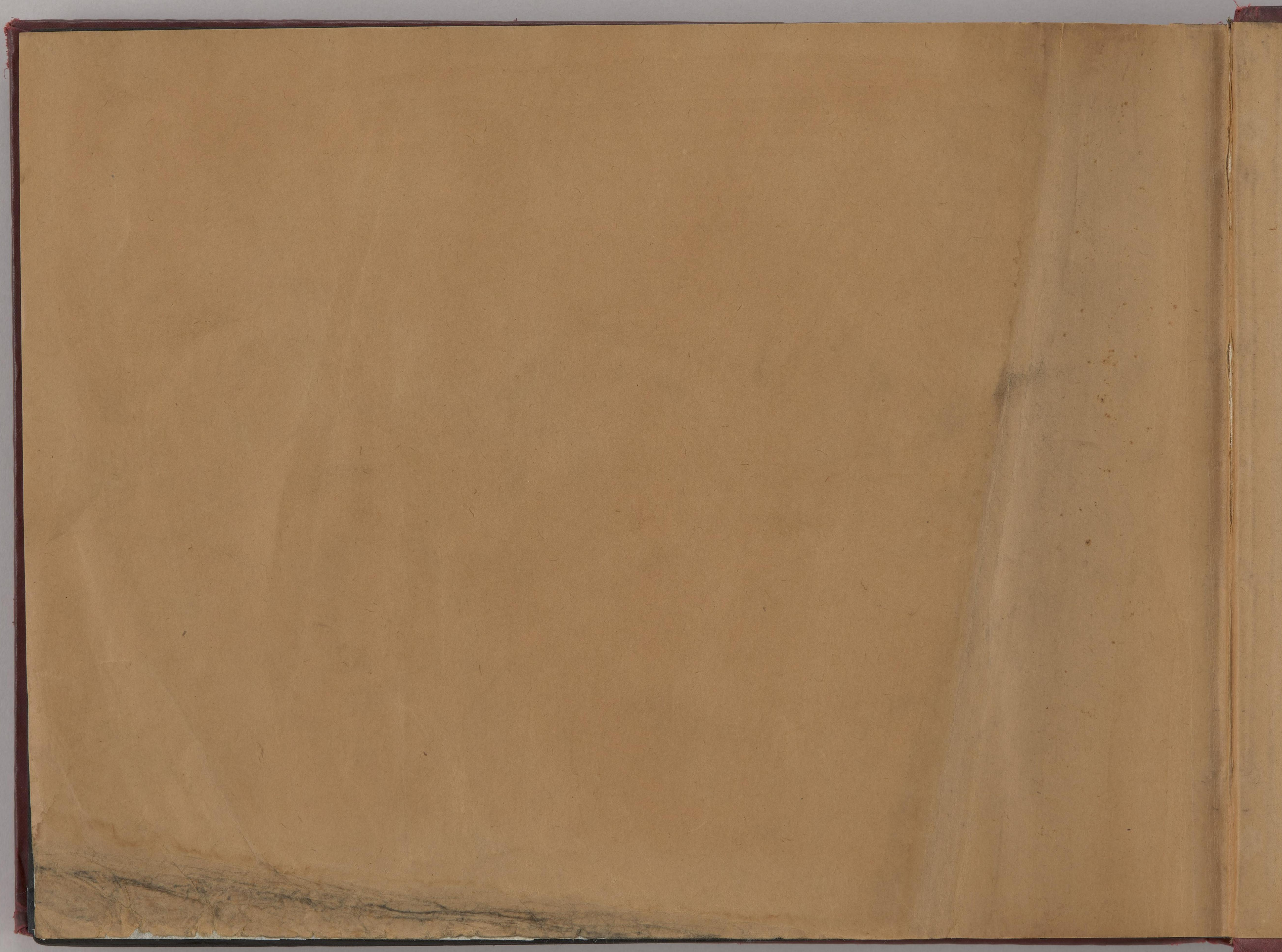


事故本

欠  
S.7.7.12発行  
「愈」完成  
就航して  
空のオハロ子航  
の写真

禁電子式複写







新聞聯合

寫真

真二五八

昭和七年七月

品目換



植田將軍退京

植田第九師團長は十三日午後八時五十分上野驛金澤へ歸任。たし頭驛に植田の名百數民官め始を部腦首軍海陸遣派海上等長謀參田島・官令司澤鹽・長謀參代にて驛野上は眞寫 ため極を大盛でり送見

(許不載轉製複) 行發日一月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



京入行一節使國洲滿

一京入で車列著驛京東半時八前午日一は氏脩鑑丁長總通交表代日訪派特國洲滿  
に社神國靖・宮神治明・拜遙を城宮り到に前橋重二にち直りよ驛京東は名六十行  
首藤齊後會散議閣し問訪を邸官相 首後 憩休・餐午り入にルテホ國帝後たし拜參  
待招相陸木荒るけおに邸官相陸りよ時六後午しなを摺挨の日訪に僚閣各下以相  
行一るす拜遙に前橋重二 は真寫 たつ終を程日の日一第席出に會餐晩の  
(許不載轉製復) 行發日一月七年七和昭 スーユニ部真寫合聯聞新





式兵觀大の賀祝節長天下陸帝皇國英

長天回七十六第下陸世五ザーヨツ帝皇國英日四月六る去 合聯發(ンドンロ)  
れは行に嚴壯てい於にドーレバツターガ・スーホのンドンロは式兵觀大の賀祝節  
(照參電外の時當) た

(頭先) 下陸世五ザーヨツの兵閱御 .一 は眞寫

(許不載轉製複) 行發日二月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



ムウチタス クツピムリオゝるらめ涉が備準々着

(有所権版社本) — 合聯發(スルゼンアスロ)

委ケンジイナガルオ・クツピムリオ般過は行一團者記聞新のヤニルオフリカ南  
ユニに特にムエゲタス・クツピムリオで内案の氏—マーアブ・クツザの會員  
に上棹たれさ設新に央中口入たつ行を聞見下の備設諸たれさ備設爲の導報ス—  
。うらあてまこるへ蹴くしか輝が旗國の丸の日に裡樂奏の代々君てがやは

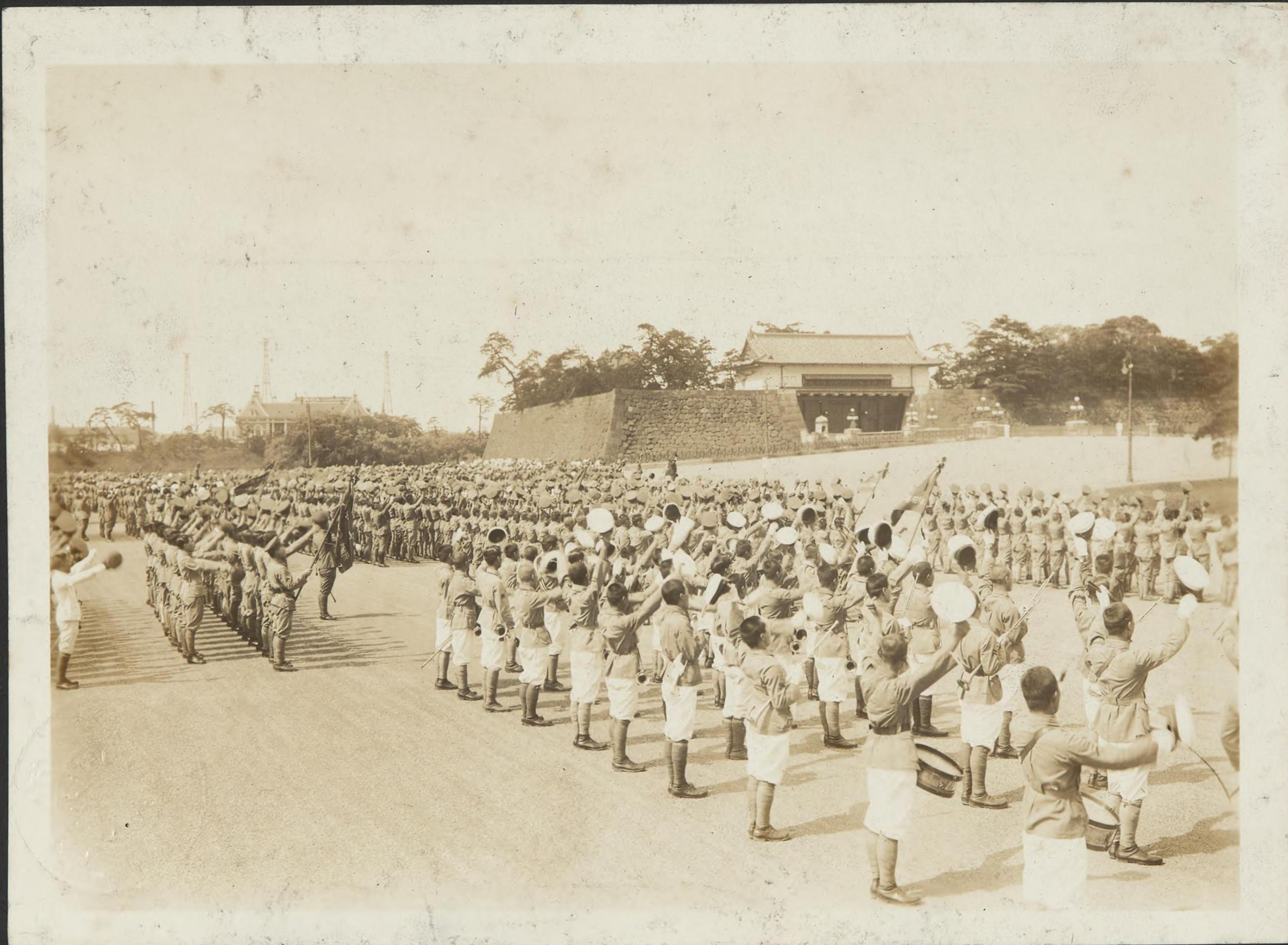
(許不載轉製複) 行發日二月七年七和昭 ス—ユニ部眞寫合聯聞新





會大念記年周六の設開訓青

主市京東りよ分十三時八前午日三でのる當に年周六滿てれき説開が所練訓年青  
中市へ整を伍隊後の唱三歳萬集參に前城宮は名千六生訓青下府及内市に下の催  
あ辭訓の長市田永でい次に式揚掲の旗國 奏吹代々君り至に園公谷比日し進行  
式揚掲旗國るけ於に園公谷比日は眞寫 たし會散時一十り  
(許不載轉製複) 行發日三月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



待招に館葉紅を節使國洲滿

を名數十下以脩鑑丁節使國洲滿の中朝來下目はで体團業實び及所議會工商京東  
開に館葉紅園公芝を會餐晩に更れ重を談懇々種待招にブラク業工内の丸夕日二  
夏し喫滿を事食の風本日純り遣を興にり踊葉紅の連妓名の物名館同上席。たい  
。たし會散てし盡を歡でまるく更の夜の

行一節使國洲滿たれま待招に館葉紅 は眞寫

(許不載轉製複) 行發日三月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新





＝ へ現實の會農市京東 ＝ モデ大の民農下都

た關機導指の戸萬十約家農るれさ含包に市京東にたら新ひ伴に現實の制京東大  
途前の家農ぐえ喘に底ソドへさ唯でのるれさくな儀餘を散解然當は會農村町る  
表代てげ揚をび叫のとよせ置設を會農市京東み鑑にるあのもきべす慮憂る頗は  
各等所役市廳視警てつ終議審を案體具合集に會農國帝時一后午日四は名百五約  
見會さ役助地菊 情陳へ所役市は眞寫 たし情陳問訪を面方

(許不載轉製複) 行發日四月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新







場議議會ヌンザーロ ためつあを聴視の界世

句二約てめ集を聴視の界世全來以會開日六十月六る去 合聯發 (ヌンザーロ)  
佛・英・日きづ近に圓團大々愈も議會償賠ヌンザーロた來てれ重を折曲餘紆り互に  
佛・獨の絶懸がすさに礎基を式方決解題問償賠たし草起の會員委部幹國々五百・伊  
たつなゝまこるづ閉を議會て以を日七でのたつ立が込見の和調も解見の國兩  
(許不載轉製複) 行發日五月七年七和昭 スーユニ部真寫合聯聞新



刑求に黨産共ふけ

所判裁方地京東らか時九前午日五今は判公の黨産共本日る係に名百二等學野佐  
澤戸は中前午 け分に后午さ前午は刑求告論の事檢がたれか開に延法審陪號二  
親貞山鍋 學野佐てし當擔が事檢田平は后午し刑求を名五十九てし當擔が事檢  
るあて答すなを刑求の名五百下以部腦首等郎四村田三  
人聽傍たせ寄押に刑求の前午 は眞寫

(許不載轉製複) 行發日五月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新





る上に途壯夕昨機廻早界世

サキテたし表發を畫計行飛大の週一界世で間日六 (合聯發日五クーヨーユニ)  
・トツネベの州マホラクオび及氏ンタマ・スムーゼのスーワ・トーオフ州ス  
な地當(分一時六後午日五間時本日)分一時四前午日五よいよいは氏ンイフリグ  
因たつ向にスーレグーアザーハのドンラドンアフーユニるた地的目の初最發出  
の分一十五時五十八たし立樹が氏兩イテツゲ .トスポ日一月七年昨は氏兩に  
るあでのもる居てしざ目を破打録記

氏ンタマ右・氏ンイフリグ左 氏兩の中備準 は眞寫  
(許不載轉製複) 行發日六月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



き繼引務事相外田内

室臣大り至に省務外に共さ相首藤齊分五十時一十前午後了終式任親は相外田内  
内りよ相外前藤齊てめ集を同一官等高に堂食大下階分十四同ひ行を繼引務事で  
たつあが拶挨の任就りよ伯田内でい次し紹介を相外新田

相兩の繼引務事 は眞寫

(許不載轉製複) 行發日六月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



待招が相首を官問願府樞 會餐晩の露披閣組

府樞各下以長議副正沼平・富倉ていむに邸官相首らか時六后午日七は相首藤齋  
りよ側府政し催を會餐晩の露披閣組待招を官記書各下以長官記書上二・官問願  
席出他其官事參局制法兩崎黒・森金・官長局制法切堀・長官記書田柴・僚閣各  
氏諸の子金・富倉・藤齋・沿平（らか右てつ向）會待招府樞の相首は眞寫 たし  
（許不載轉製複） 行發日七月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



聯盟調査團外相と會見

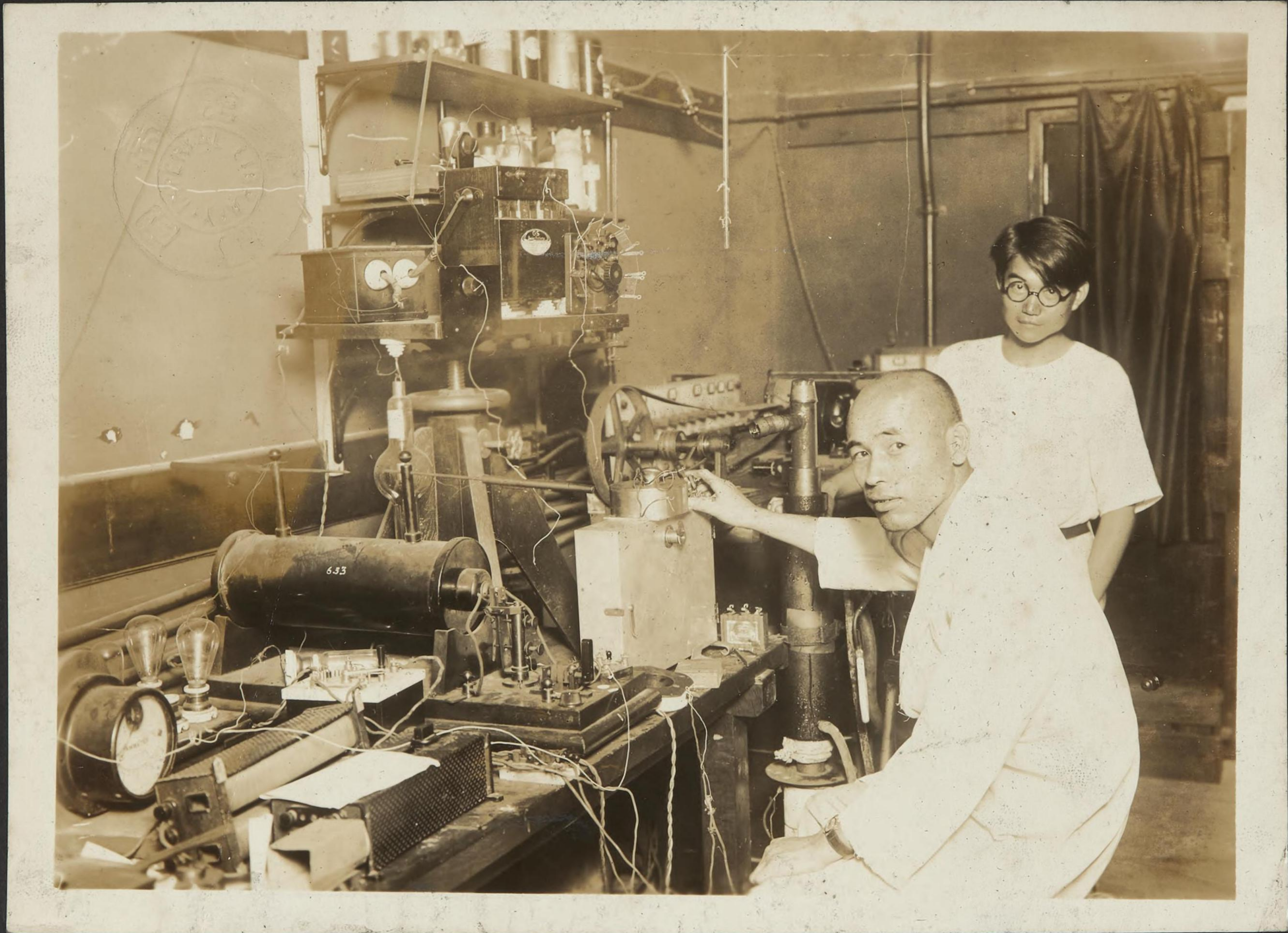
聯盟調査團のマッコイ將軍一行（リットン卿病氣のため不參）は七日午前十一時外務省を訪問、内田新外相と會見再來の挨拶並に外相就任の祝辭を述べリットン卿と外相との會見日取り等についても種々懇談同十一時半辭去した  
寫眞は、外相と會見の聯盟委員 向つて左から マレスコツテイ伯、マッコイ將軍、内田外相、シユネー博士、クローデル將軍  
新聞聯合寫眞部 ニュース 昭和七年七月七日發行 （複製轉載不許）





＝ 成完究研の士學工邊渡究理 ＝ 明發的界世の一キート

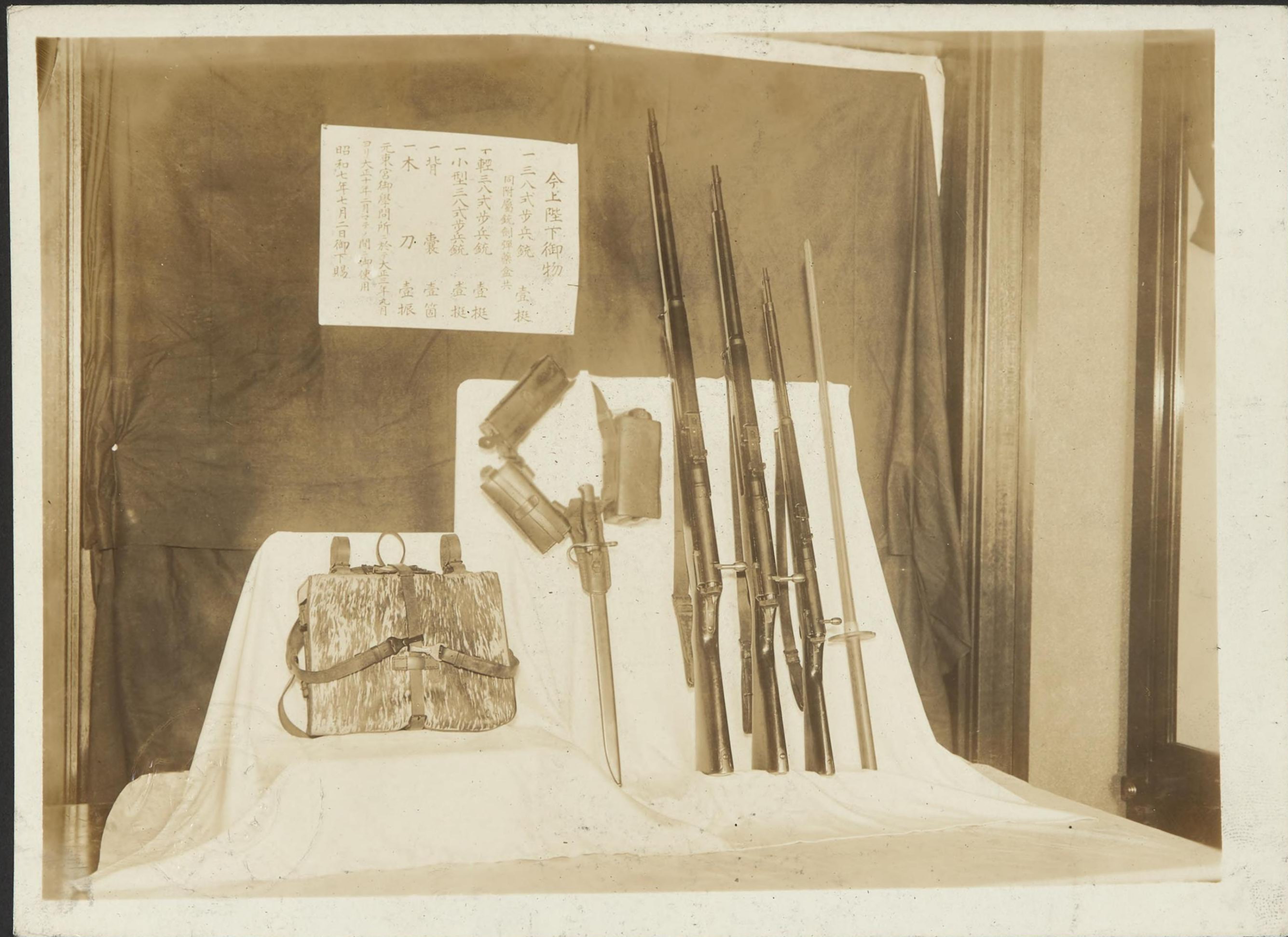
畫映聲發近最は氏兩囊石白手助及平俊邊渡士學工の室究研内河大所究研學化理  
ばれ當に屬金が線極陰は氏兩 たし成完を明發な重貴きべる誇に的界世上作製  
てつ依に線スクツエたれさ化變のそし用利なところす有な質性を變に線クツモ  
特回今に遂し功成にとこるけ付焼にムルイフを化變の流電らんオフロクイマ  
氏兩(右)石白(左)邊渡るけ於に室究研は眞寫 るあでのもたつ至にるけ受を許  
(許不載轉製複) 行發日八月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



賜下御物御に館就遊

兵歩式八三輕 用使御迄月三年五同りよ月九年三正大 一 銃兵歩式八三型小  
(共盒藥彈劍銃) 銃兵歩式八三 用使御迄月三年八同りよ月四年五正大 一 銃  
別特般今は右 一各 刀木 囊背に外 用使御迄月二年十同りよ月四年八正大一  
頭出に省内宮は長館田松り成相賜下御に館就遊を物御下陸上今て以を召思御の  
るらせ達傳りよ長從侍木鈴

(許不載轉製複) 行發日八月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



今上陛下御物  
一三八式歩兵銃 壹挺  
一輕三八式歩兵銃 壹挺  
一小型三八式歩兵銃 壹挺  
一背囊 壹箇  
一木刀 壹振  
元東宮御所於大正十一年  
昭和三十二年二月御下賜

愈愈日本選手一行を迎へて高塔高く旭日に輝くロサンゼルス スタヂウム  
(ロサンゼルス) 發聯合 六日桑港に上陸米大陸へ第一步を印した我代表選  
手第一班は桑港に於る盛んな歓迎と充分な練習を了へて愈々ロサンゼルスへ堂  
々々乗り込むこととなつたが暗れのスタヂウムには歓迎の辭と共に日章旗高く  
旭日輝き我等が代表の必勝を壽ふが如くいと壯嚴な氣分が漂つてゐる  
新聞聯合寫眞部ニュース 昭和七年七月八日發行 (複製轉載不許)



ワイトマン杯に米國優勝

(ロンドン)發聯合 毎年英米の庭球界を賑すワイトマン杯庭球戦は過般ウインブルドンに於て開會され米國のヘレン・ウイリス・ムーディ夫人の健闘に依つて米國が優勝した 寫眞は英國のドロシー・ラウンド嬢(右)を六一二 六一三のスコアで敗つて米國を優勝に導いた米國のヘレン・ウイリス・ムーディ夫人(左)

新聞聯合寫眞部 ニュース

昭和七年七月八日發行

(複製轉載不許)





いし苦暑は償賄がいし涼はヌンザーロ

的功成的体具みのてつ依に壊破部一の制體ユイサルベ 合聯發(ヌンザーロ)  
今昨たいつ近に末終や早も期會の議會償賄ヌンザーロいしらるれら得を果効な  
いし苦暑は議會がだ所いし涼はヌンザーロ地場會かすなを議決的果効るな何如  
終を議會るけ於にルテホユヅーバリウホ舎宿の團權全國英は眞寫 うらだ事  
團權全國各るめ求を涼に園庭てつ

(許不載轉製複) 行發日八月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



見會と相陸團査調盟聯

ルデーロク 軍將イコマ 伯ゲンアヅロドルアく除を郷ントツリの團査調盟聯  
時十前午日九で内案の佐大渡へ隨を員隨の名三外長記書スーアは氏四一ネユシ  
を見會席列長課事軍下山 長局務軍岡山 官次磯小し問訪を相陸木荒に邸官相陸  
ロドルア 士博一ネユシ (らか左てつ向) 見會の團盟聯と相陸は眞寫 たつ行  
軍將イコマ (端左列後) 將軍ルデーロク (ていお人一) 相陸 伯ゲンアヅ  
(許不載轉製複) 行發日九月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



任 歸 使 公 那 支 蔣

半時一十前午日一十伴同人夫は氏賓作蔣使公國民華中日駐たつあで中國歸暇賜  
入に館使公國民京入路一で車動自のし廻し差館使公 着歸に濱横で丸安平船郵  
。たつ

妻夫使公蔣たい付落に館使公 は真寫

(許不載轉製複) 行發日一十月七年七和昭 スーユニ部真寫合聯聞新



髪散で館會族華 = しかめおの相首老

つ驅を車動自朝早日一十は相首老藤齋たつ送で壯別の山葉をドンエ・クワイウ  
の事食おいる輕時晝お度恰がのたしトツホてつ執を務政の般諸で邸官・京歸て  
たつなくし々若と段一くし應相に相首顔童・髪散てい赴へ部髮理の館會族華後  
相首藤齋の中髪散は眞寫 たつ入に邸官てしとびのびので歩徒りよ所同は相首  
(許不載轉製複) 行發日一十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新





愈々完成 就航した・空のオイロバア號

(ベルリン) 發聯合 既報の獨逸のガアイアント・旅客機「G三八D二五〇〇」  
號機に終は完成し去る六月廿三日「空のオイロバア號」をして堂々三十人の旅  
客を同乗ベルリン―ハノーバー―アムステルダム―ロンドン間の處女飛行をな  
したが今後は同航空路專屬の旅客機として活躍することになった。  
寫真は 處女航路についた「D二五〇〇」號機

新聞聯合寫真部 ニュース

昭和七年七月十二日發行

(複製轉載不許)



手選西の習練猛く凄物氣意の勝必

竹西に共々習練猛の手選術馬我は電外社我に轟 合聯發(スルゼンアスロ)  
其がるゐてじ報を事るゐてれさやはて持に連優女いし美のドツウリハが尉中一  
ラベリ場會は所場 .たし着到が眞寫ムーオフなかや鮮の中習練の尉中西のれ惚  
。るあで場馬のブラクーリツンカ  
(許不載轉製複) 行發日二十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



へ省軍海車動自甲裝の勳殊

旋凱に賀須横程のこは車動自甲裝の隊戰陸軍海たて樹を功戰の多幾で線戰海上  
入都のれ晴日三十は車號九第たし驅馳を線前でせ乘を長隊松植で中のそがたし  
首省軍海下以相海田岡 宮長部令軍見伏は車甲裝たし着到に省軍海 たしをり  
たつ向へ場會展蒙滿の館技々國兩てつ練を都帝後たけ受を覽閱の部腦  
車甲裝るけ受を覽閱の下以相海田岡 宮見伏 は真寫

(許不載轉製複) 行發日三十月七年七和昭 スーユニ部真寫合聯聞新



着我オマリビツク代表選一手行勇躍してハワヘ到着

丸田龍日三廿月去は班一第行一手選表代クツピムリオ我 合聯發 (ルルノホ)  
は行一 港入ヘルルノホ日一月七る去に裡穩平中途がたつ向へ府羅路一船乗に  
たつ行を習練猛てめしみ踏を地大に振し久し陸上、つけ受を迎歡るなれ盛  
行一手選上陸たし寫で上船丸田龍際の着到イッハ は眞寫  
(許不載轉製複) 行發日三十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新





デパート列車を運轉 〓 不景氣退治の一策として  
東京鐵道局では不況打開の一策として純國産品を滿載したデパート列車を編成  
十五日午後上野驛を振り出しに東北、北海道を一巡し國産品を愛用して不景氣  
を退治せよと大に鼓吹するさうだ、成績次第では關西、九州方面へも試みると  
寫眞は デパート列車 (於上野驛)  
新聞聯合寫眞部 ニュース 昭和七年七月十四日發行 (複製轉載不許)



伯田内たつ納に一キート = る語を負抱のでしと相外

納に一キートのスクツホフは伯田内のみ込植の側堂食省務外 時二后午日四十  
外がたつあで間分數たべ述に明簡を場立の本日るゐてい惹を聴視の外中 たつ  
云と量聲ひ云とアエチスせてつあで分十にるふ傳に國諸外海を負抱のでしと相  
(省務外於) 相外田内たつ納に一キート は真寫 たつあでのもるた々堂に實ひ  
(許不載轉製複) 行發日四十月七年七和昭 スーユニ部真寫合聯聞新



習練猛の手選上水表代我るけ於にイワハ

地同々早陸上は行一手選我たし港寄にルルノホ次途の征遠 合聯發(ルルノホ)  
選も人國各の物見がたつ行を習練猛のり振し久て於にループ念記勝戦キキイワ  
たつあでみのるゐてつはみを眼の異驚々たに調好の手  
人國各るす物見を習練の手選にループキキイワたれま圍に林樹帶熱は眞寫  
(許不載轉製複) 行發日五十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



兩内親王様御避暑

孝宮、順宮兩内親王殿下には十五日午前八時五十分宮城を御出門同九時二十分  
上野驛御發車午后零時十三分南那須野驛に御著車、鹽原御用邸に御避暑あらる  
照宮殿下にも來る二十日頃葉山御用邸に御避暑成る筈である  
寫眞は上野驛にて謹寫

新聞聯合寫眞部ニュース

昭和七年七月十五日發行

(複製轉載不許)





す起をンヨシイセンセにンソラマで場出ミルヌ

出がミルヌのドンランイフ王ンソラマの界世にンソラマのクツピムリオの回今  
と將主田織我でん入り乘に府羅場會に既は人本がたゐてれき議論角兎で題問場  
三ンソラマ我て軀は場出のミルヌがたれらぜ報きたへ傳を意の場出てしを手握  
るゐてい惹を目注の大多でのい多が所るす響影もに表代

ミルヌの備準場出は眞寫

(許不載轉製複) 行發日六十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



眞崎參謀次長奏上

天皇陛下には十五日午後二時から宮中御學問所にこの程滿洲視察を終へて歸京した眞崎參謀次長を召され約一時間に亘つてその奏上を聽召された、一木宮相鈴木侍從長、奈良武官長等にも陪聽を差許された  
寫眞は參内の眞崎參謀次長

新聞聯合寫眞部ニュース

昭和七年七月十六日發行

(複製轉載不許)



り踊盆の座金町濱 = 迄るく更の夜・れ踊・れ踊

々々び伸も踊盆物名座金町濱の例恒 空の雨たい續やく憎にふ云とだ盆 だ盆  
笑可白面が達んさ嬢おの内町で衣浴のひ揃おべふゆたつ上れ晴とつやてつなに  
。たい拔り踊でまるく更の夜てれ連に囃いし

(許不載轉製複) 行發日七十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



版華豪の會馬競國英 = トーコスエ・ルヤーロ

コスエ・ルヤーロ版華豪の界馬競國英 日五十月六る去 合聯發(ソンドンロ)  
の此がたれは行に大盛にともの席臨御方族皇各及下陸兩后皇 帝皇國英はトー  
彩色だ日ソヨシーレトスンモテのソヨシツアフはてつみに界交社國英又は日  
。ため極を觀盛に行流のリざりま型  
方族皇各及下殿子太皇 下陸后皇 下陸帝皇(らか左)の席臨御 は眞寫  
(許不載轉製複) 行發日七十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新

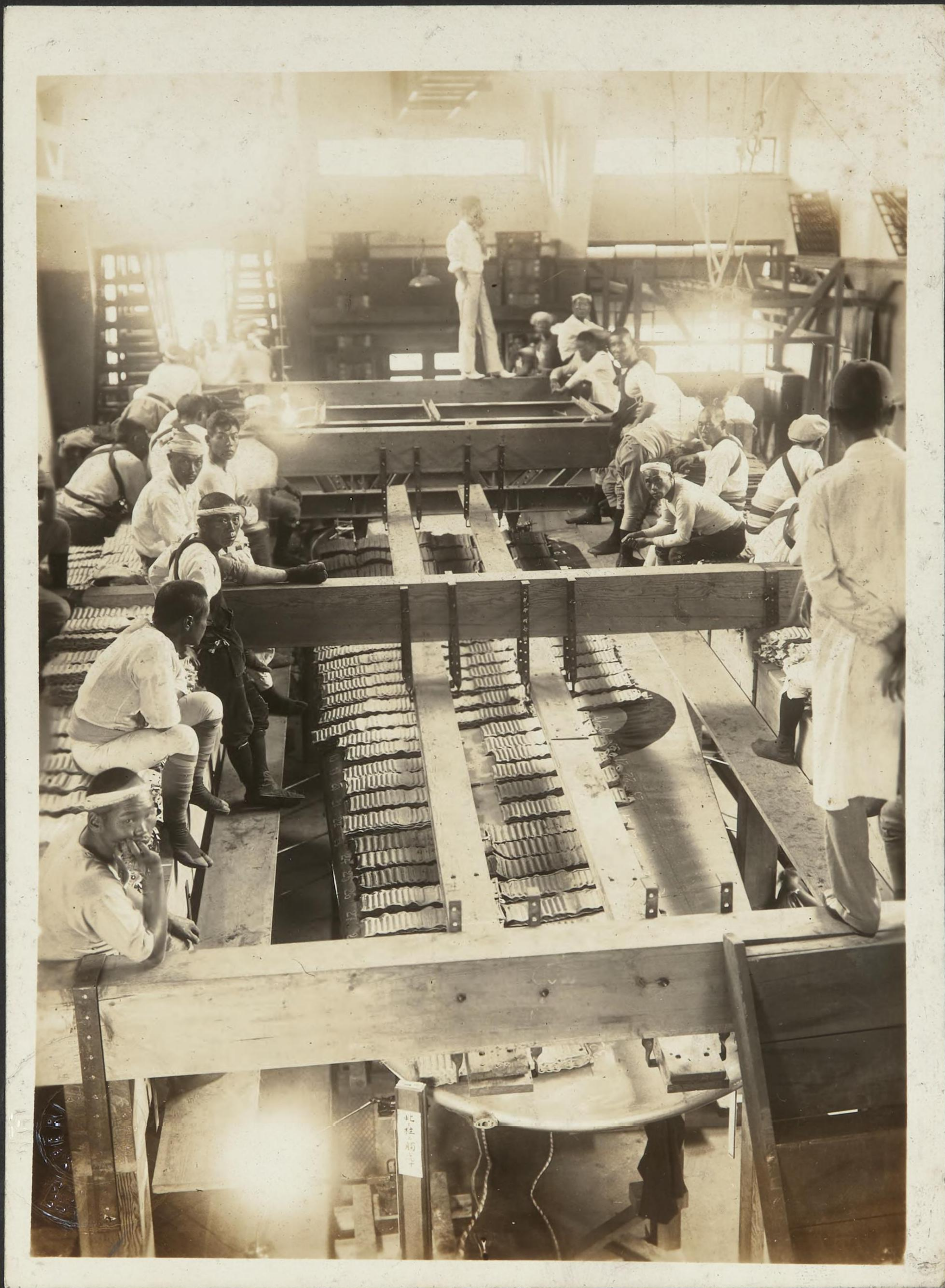




古飛行機がまだ使へるかどうか けふ航研で翼の荷重試験  
我國の旅客機は取締法規によつて一千五百時間以上の使用は許されてゐないの  
で果して右法規の限界が適正であるや否やの地上試験が十八日帝大航空研究所  
で行はれた。TBAWO號の翼の上に空氣の壓力に似せた鉛彈帯をのせる役目の  
人夫が五十名で近頃稀にみる大掛りな實驗だつた。  
寫真は 飛行機の翼の荷重試験

新聞聯合寫眞部ニユース

昭和七年七月十八日發行 (複製轉載不許)



動物園に珍客到来

野上動物園にヤマニマの珍客が来りトスパンオリの夫婦も先頭  
もたし獲捕で島孤一の洲濠時た出に海航洋遠の回九十五第が生補候尉少の軍海  
で色褐暗は色毛くさ小へ大は體 物動るす屬に類袋有た似にルーガンカでの  
動物動 べ食でん好を類薯や蔘入るす躍活夜てめてつ眠は間晝で捷敏は動行  
。たし容收に隣の兎黒の脇室類虫は はで

(許不載轉製複) 行發日八十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



花クツビムリオの夏今

に花クツビムリオの夏今がスラチヂラグきし床に艶 合聯發(スルゼンアスロ)  
の此さ「れあ光榮にスラチヂラグ」て於に市スルゼンアスロ般過でのたれさ定指  
たれば行に大盛が祭スラチヂラグる讚を花クツビムリオ  
スラチヂラグと嬢ンマーダービ・ンアリリ員待接クツビムリオは眞寫  
(許不載轉製複) 行發日九十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



會大ステナの念記織組再の隊 A・S

に毎度の舉選と舉選會國ヤシロブ・舉選領統大 合聯發(ツイドーンヘンユミ)  
閣内ゲンニーユリブは黨粹國の一ラトツヒ・フルドアた來てけ續を進躍的異驚  
隊A・Sたれさ止禁にき先て得をトツボロ的な實事ふ言と閣内ンペーパは後壞崩  
を會大黨るな大盛て於にンヘンユミ日三月七る去に共とるす織組再を(隊撃突)  
たつ行をンヨシーレトスンモデ大ーき開  
(隊撃突)隊A・Sるけ受を閣查の氏一ラトツヒは眞寫

(許不載轉製複) 行發日九十月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新





伊太利オリムツク選手

於にスルゼンアスロ・てし表代を利太伊・國の一ニリソツム 合聯發(マ-ロ)  
定決て經を選豫の地各は手選クツピムリオリ太伊るす加參にクツピムリオリ  
な勝必てし盡をトスベ問訪を相首一ニリソツムは行一般過てつ立先に發出・し  
たし喜を相首てし示を程の心決るす期  
行一手選クツピムリオリ太伊の影撮念記と相首一ニリソツムは眞寫  
(許不載轉製複) 行發日十二月七年七和昭 ス-ユニ部眞寫合聯聞新



へ外海を本日の眞

じ通を繪世浮の代時戸江はで園字十赤年少本日るあに内女高松盤常の谷遊外市  
にめたるす介紹に界世全を本日の眞・し去除を念概的な化文非るてみつま擴て  
赤本日は上の來出で答の成完く近がるあで中製作を「帖畫大物實俗風景風本日」

帖畫大本日の中作製は眞寫 だうさるす呈贈に國各て經を社字十  
(許不載轉製複) 行發日十二月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



るは賜を章功有家行飛鮮朝の間訪國故

程の此め納を功成大に行飛問訪國洲滿及土郷來前は君鉉昌尹家行飛の身出鮮朝  
に邸宮の山青を君同時五後午はに下殿宮本梨裁總會協行飛日一十二がたし京歸  
。たつは賜を章功有に特上たれらせは稿を苦勞のそれさ召  
（君尹右のそ・宮本梨央中）君尹の榮光 は眞寫  
（許不載轉製複） 行發日一十二月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



陸の魚

凡そ銀座がモガ、モボ湯仰の聖地であるとしたならば、こんなちやないでせうかしら。云ふのがこのスナップです。でも心ある人達は私かに眉を擡めてゐるんです。まるで百鬼晝行ですな。強ひて言葉を代へてこの風景を誇張するならば海なき銀座の濱邊を逍遙する若き人魚の群れ等、等、等  
寫眞は、ピーチ・パジャマで銀座を潤歩するモガさん

新聞聯合寫眞部ニユース

昭和七年七月廿一日發行

(複製轉載不許)





照宮様葉山へ御避暑

照宮成子内親王殿下には廿一日から女子學習院も暑休に入つたので廿二日午前  
十時十分宮城御出門藤井御養育掛長、野口事務官、塘御養育掛等が御供申上げ  
同二十二分東京驛發電車で同十一時二十二分逗子驛御着葉山御用邸に御避暑遊  
ばされた、來月十日頃迄同御用邸に御滞在の上更に鹽原御用邸に成らせられ孝  
宮、順宮兩内親王殿下と御一緒は今夏を御避暑あらせらるゝ由。

寫眞は 御避暑の照宮様

(於東京驛)

新聞聯合寫眞部 ニユース

昭和七年七月廿二日發行

(複製轉載不許)



君平忠部南一パンヤジの界世

表代クツピムリオが我たし陸上に港桑日六月七 合聯發 (コスシンラフンサ)  
しミ一パンヤジの界世がたつあゝつし爲を習練猛に共さ着地同々夫は行一手選  
中習練でム一ユヂタス・ルーザケ外市港桑日七は君平忠部南つ持を録記認公て  
。たせは云トツアを共人毛紅る並し出を録記きべく驚々又  
手選部南の中習練で外市港桑 は眞寫

(許不載轉製複) 行發日二十二月七年七和昭 スーユニ部眞寫合聯聞新



人出百万人の川開き

兩國の川開き開始されて以來茲に二百五十年、大江戸の名残りを忍ぶ唯一の語り草、玉屋、鍵屋の打上げ大花火は二十三日花々しく行はれた、仕掛けは呼び物の「武勳兩將軍」で此の夜の花火代八千圓、人出百万を突破するの大人氣であつた

寫眞は兩國の川開き  
新聞聯合寫眞部ニュース 昭和七年七月廿三日發行 (複製轉載不許)

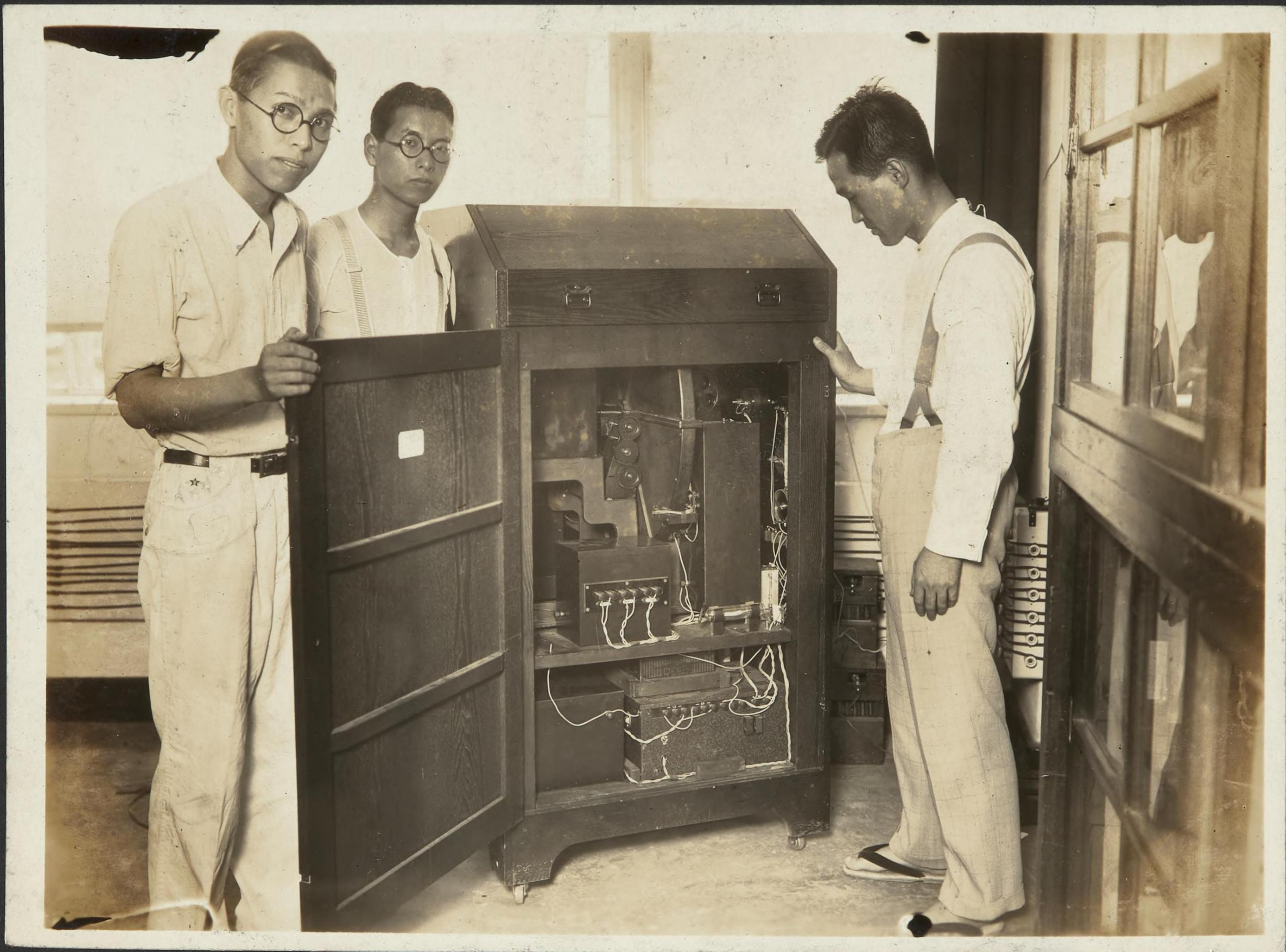


成完ノヨジビレテのき向用實

化用實成完をノヨジビレテの明照然自程此は氏有根曾員研究所験試氣電省信遞  
レテは氏 たし起きまをノヨシーセンセ大一に界斯し出み踏を歩一な大互のへ  
の明照然自でのたし成完を之てし用使を許特の種數廿の已自るす關にノヨジビ  
らな便に帶携てしとのもの位器音蓄氣電も形で徴特な要重が點る來出信送、ま  
らか左てつ向) 師技さ機影送のノヨジビレテ は真寫 〇るあてめし  
(氏諸の有根曾、正藤齋、郎二芳友森

(許不載轉製複) 行發日三十二月七年七和昭 スーユニ部真寫合聯聞新





遞相空の初乗り

遞信大臣になつて一度も飛行機と云ふものに乗つた事が無いのでは話しにならないと二十四日の日曜午前十時から南遞相はみさを夫人を初め家族を伴つて羽田の飛行場からスリー・モーター・フォッカー機に搭乗先づ東京の上空を一巡の後引返して富士靈峰を空から見ろし五湖を一巡して歸着したが之の日上京中の地方長官連も東京上空の遊覽飛行をした。

寫眞は 飛行機に乗込む南遞相と夫人令嬢

新聞聯合寫眞部ニュース

昭和七年七月廿四日發行

(複製轉載不許)



社會大衆黨結成

全國勞農黨と社會民衆黨は二十三日夫々解黨式を行ひ廿四日午前十一時より芝  
協調會館にその合同結成大會を開いた全國より代議員四百余名參集、綱領、政  
策、規約、宣言等を議決した、新黨名は社會大衆黨と命名された

寫眞は握手を交す安部、麻生兩氏

新聞聯合寫眞部ニュース 昭和七年七月廿四日發行 (複製轉載不許)